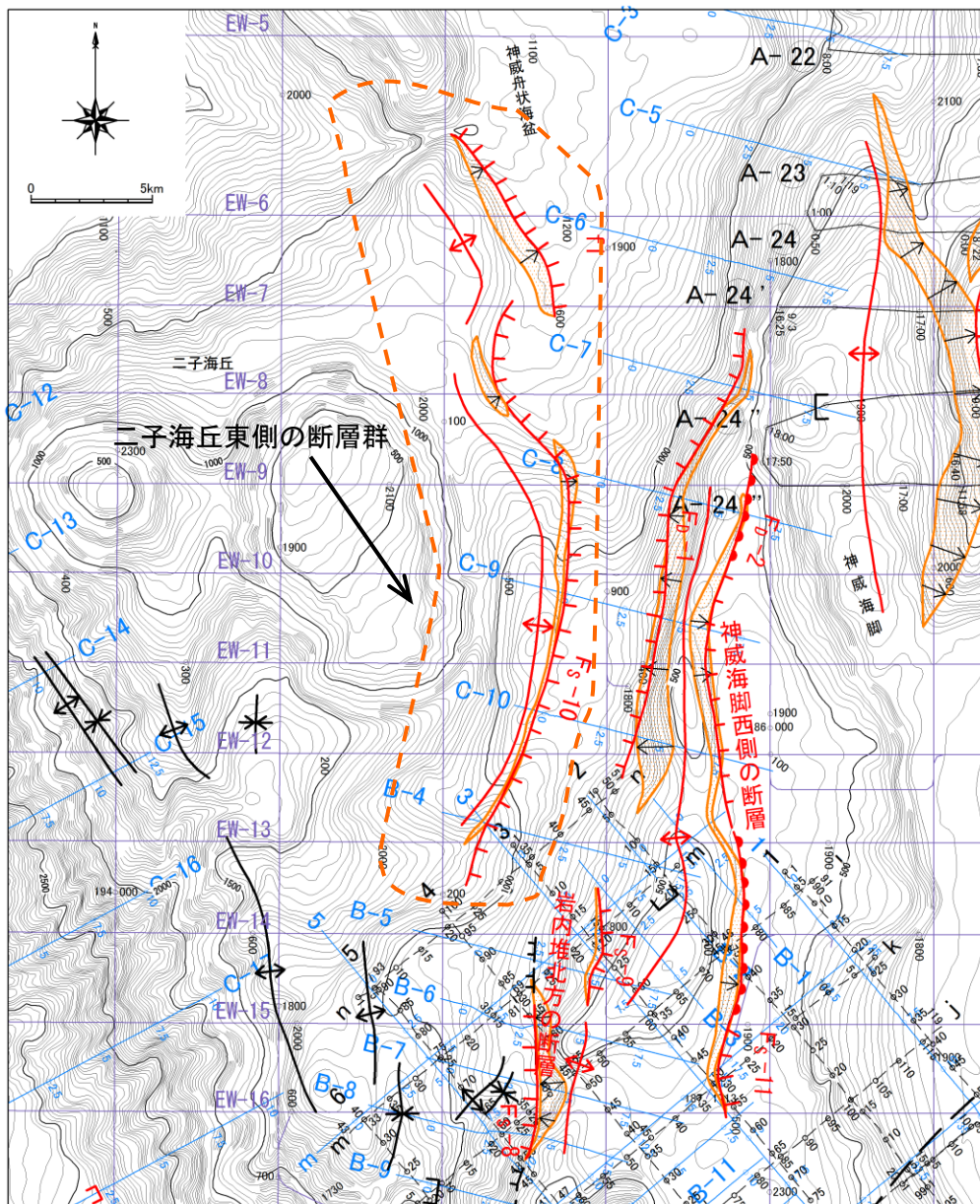




二子海丘東側の断層群は、Fs-10断層(L=38km)からなる。

Fs-10断層は、二子海丘の東側にほぼN-S方向に複数の小規模な地形の高まりを形成している。

Fs-10断層は、神威舟状海盆西縁の古い地層からなる地形の高まりより北方には連続しない。

Fs-10断層の南部周辺には、非常に緩やかで長さの短い変形が、N-S方向で断続的に認められる。

凡 例

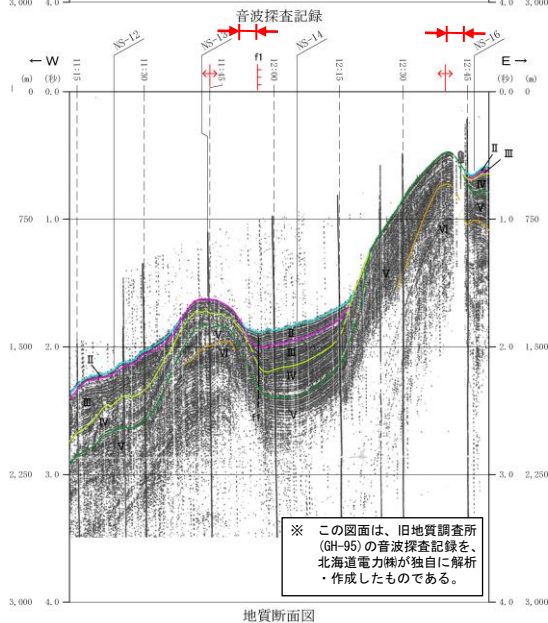
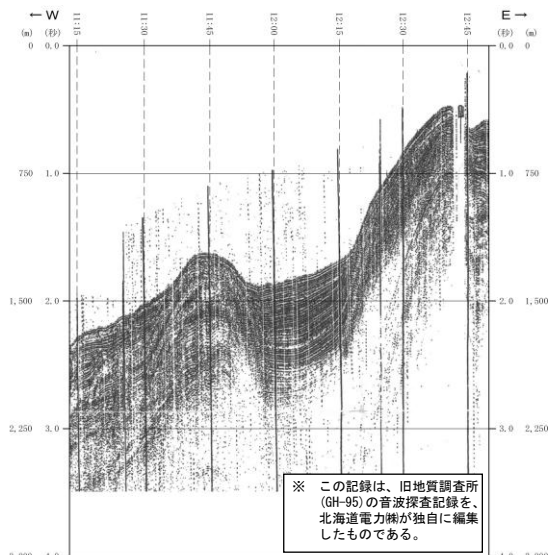
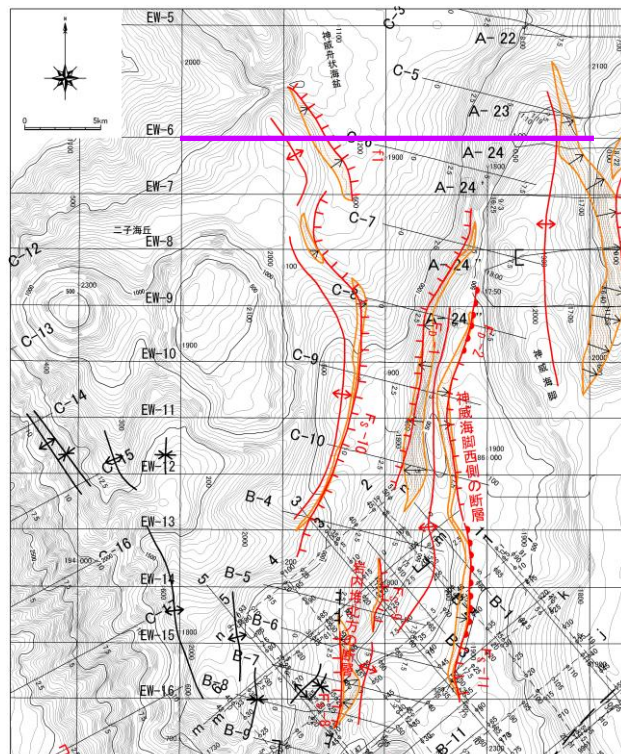


※赤は耐震設計上考慮

G-11	45	音波探査測線（北海道電力，1997年） （エアガン、マルチチャンネル） （チャープソナー、シングルチャンネル）
2	45	音波探査測線（北海道電力，1980年） （水中聴音、シングルチャンネル）
A-①	15・30	音波探査測線（北海道電力，1982年） （水中聴音、シングルチャンネル）
FW-3	200	音波探査測線（旧地質調査所，GH05） （エアガン、シングルチャンネル）

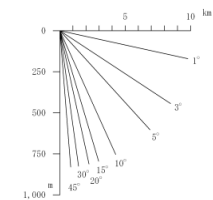
二子海丘東側の断層群の概要

■二子海丘東側の断層群(測線EW-6)



神威舟状海盆西縁部付近
に変形が認められる。

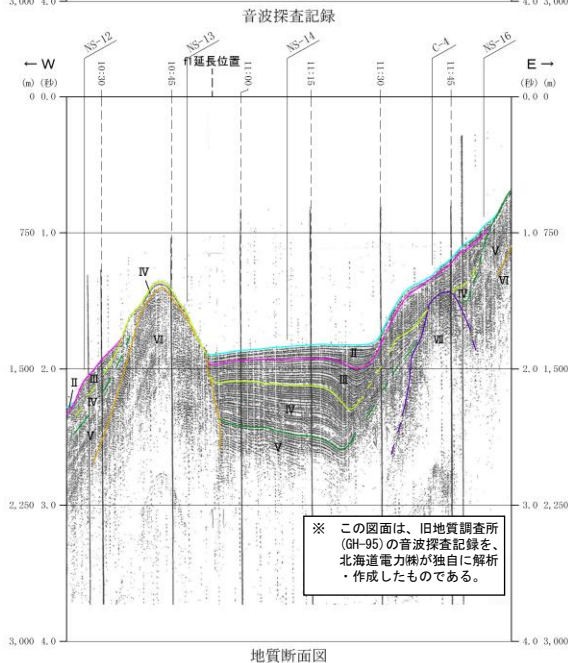
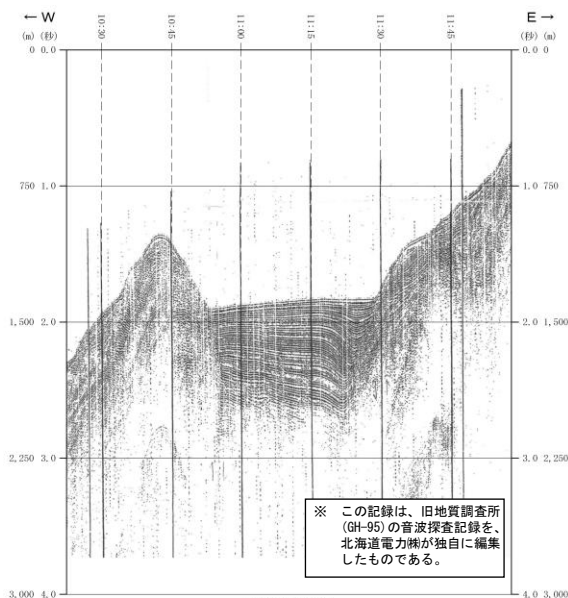
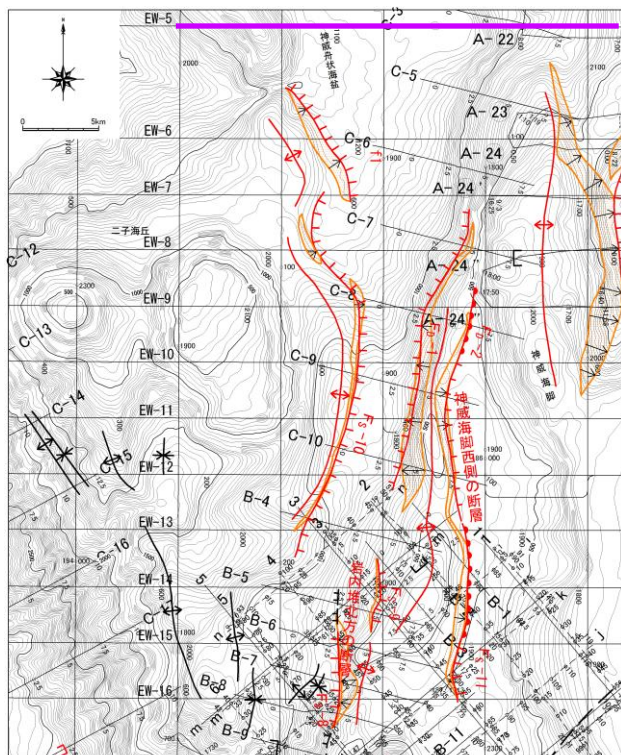
- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統) (貫入岩)
 - ～ 地層境界
 - F_S-10 断層及び断層番号
 - - - F_D-2 (変形)
 - ┌ 連続しない断層
 - ↔ 背斜軸
 - * 向斜軸
 - ※赤は耐震設計上考慮
 - ↔ 変形幅



数字 (角度) は水平・垂直が
1:1の傾斜角度

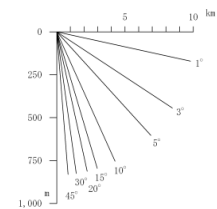
二子海丘東側の断層群の概要

■二子海丘東側の断層群の北方延長測線(EW-5)



測線EW-6で認められる神威舟状海盆西縁部付近の地形の高まりは、一旦途切れ、延長部にVI層(始新統～中新統)の高まりが分布する。Fs-10(f1)断層は認められない。

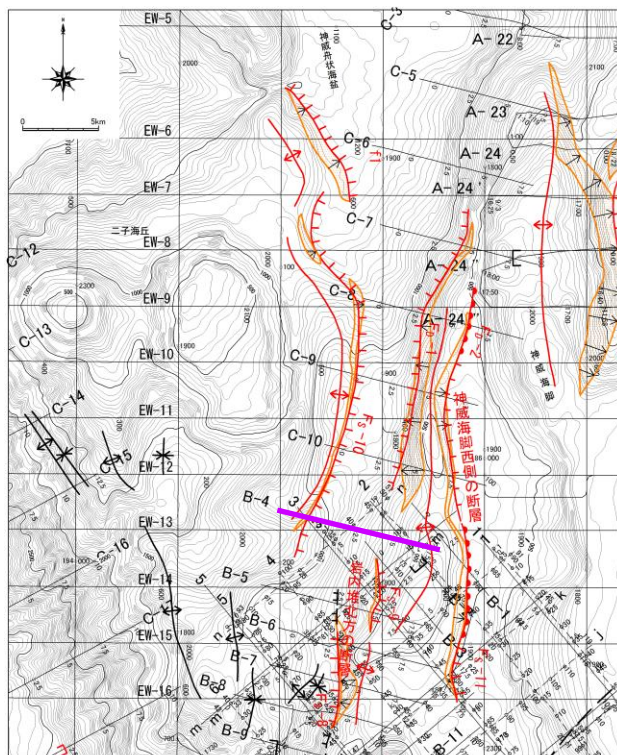
- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統 (貫入岩))
- ～ 地層境界
- Fs-10 断層及び新断層番号
- - - F₀-2 (変動)
- ┌ 連続しない断層
- ⇄ 背斜軸
- ✱ 向斜軸
- ※赤は耐震設計上考慮
- ⇄ 変形幅



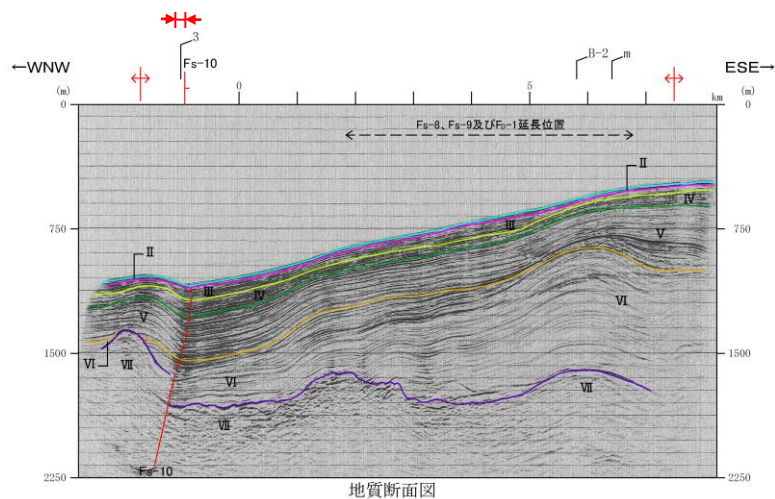
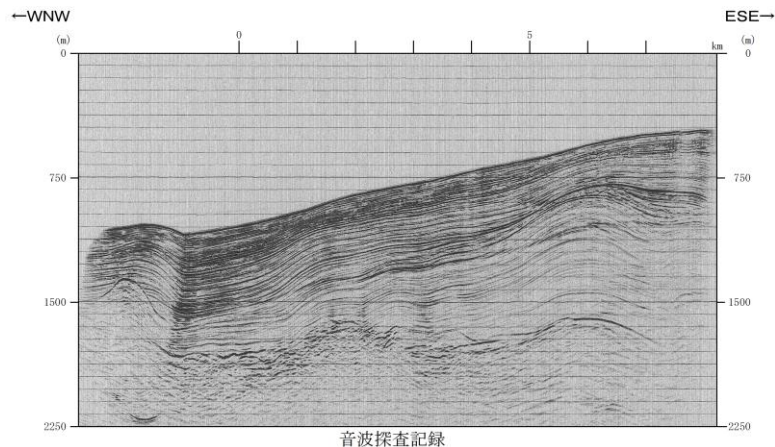
数字 (角度) は水平・垂直が 1:1 の傾斜角度

V.E. 約12

■二子海丘東側の断層群(測線B-4)



二子海丘の東側のN-S方向に延びる地形の高まりの東縁にFs-10断層が認められる。また、その東側に認められる緩やかな変形は、他の測線に連続して認められない。

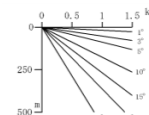


- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統)
 - (貫入岩)

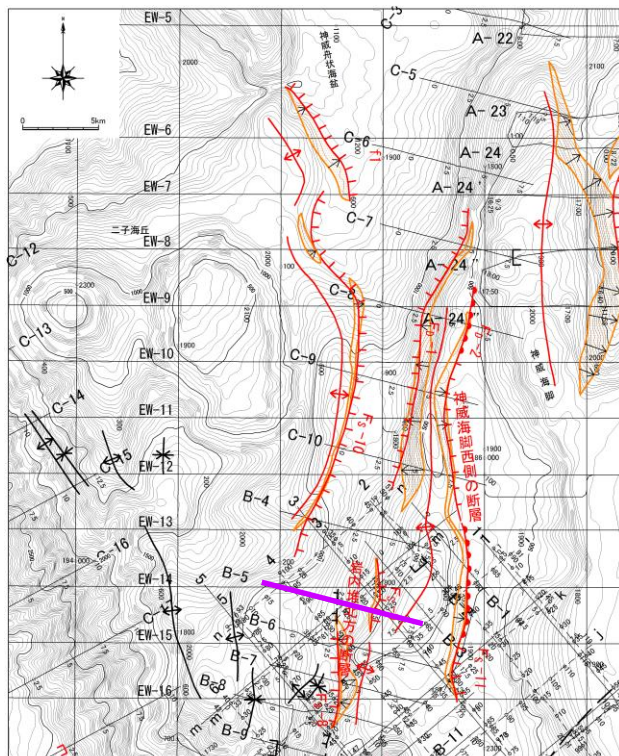
- 地震境界
- Fs-10 断層及び断層番号
- Fp-2 (変形)
- 連続しない断層
- 背斜軸
- 向斜軸

※赤は耐震設計上考慮

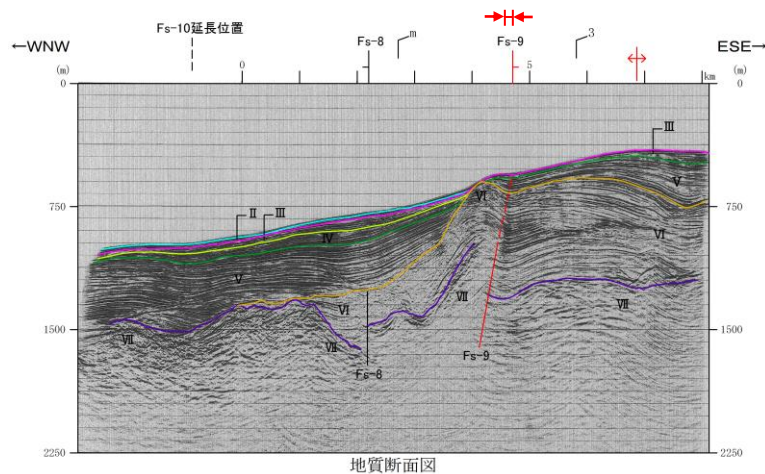
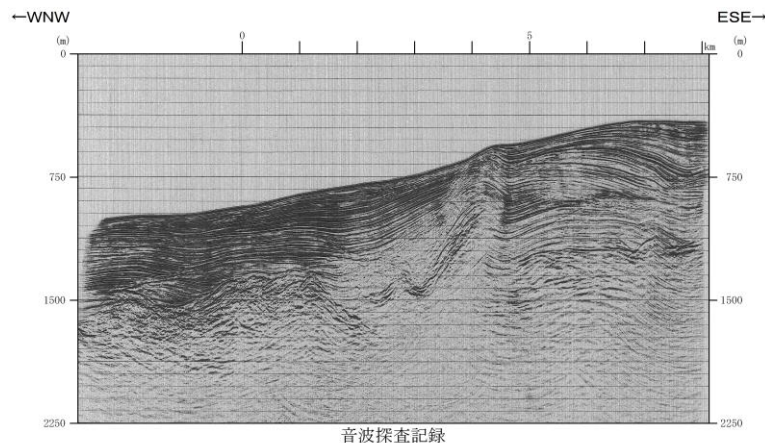
- 変形幅



数字 (角度) は水平・垂直が 1:1の傾斜角度



Fs-10断層南方延長部では、測線B-4で認められるような特徴的な構造は認められなくなる。



- | | |
|---|-------------------------|
| 凡 | 例 |
|  | I 層 (完新統) |
|  | II 層 (上部更新統) |
|  | III 層 (中部更新統) |
|  | IV 層 (上部鮮新統～中部更新統) |
|  | V 層 (鮮新統) |
|  | VI 層 (始新統～中新統) |
|  | VII 層 (始新統以下) |
|  | VIII 層 (中部更新統)
(貫入岩) |
|  | 地層境界 |
|  | F_{S-10} 断層及び断層番号 |
| 
(変形) | F_{D-2} |
|  | 連続しない断層 |
|  | 背斜軸 |
|  | 向斜軸 |
| ※赤は耐震設計上考慮 | |
|  | 変形幅 |

数字（角度）は水平・垂直が
1:1の傾斜角度

V.E. 約3



岩内堆周辺の断層群の概要

岩内堆周辺の断層群は、寿都海底谷の断層(L=42km)、岩内堆東撓曲(L=27.9km)及びFs-12断層(L=6.7km)からなる。

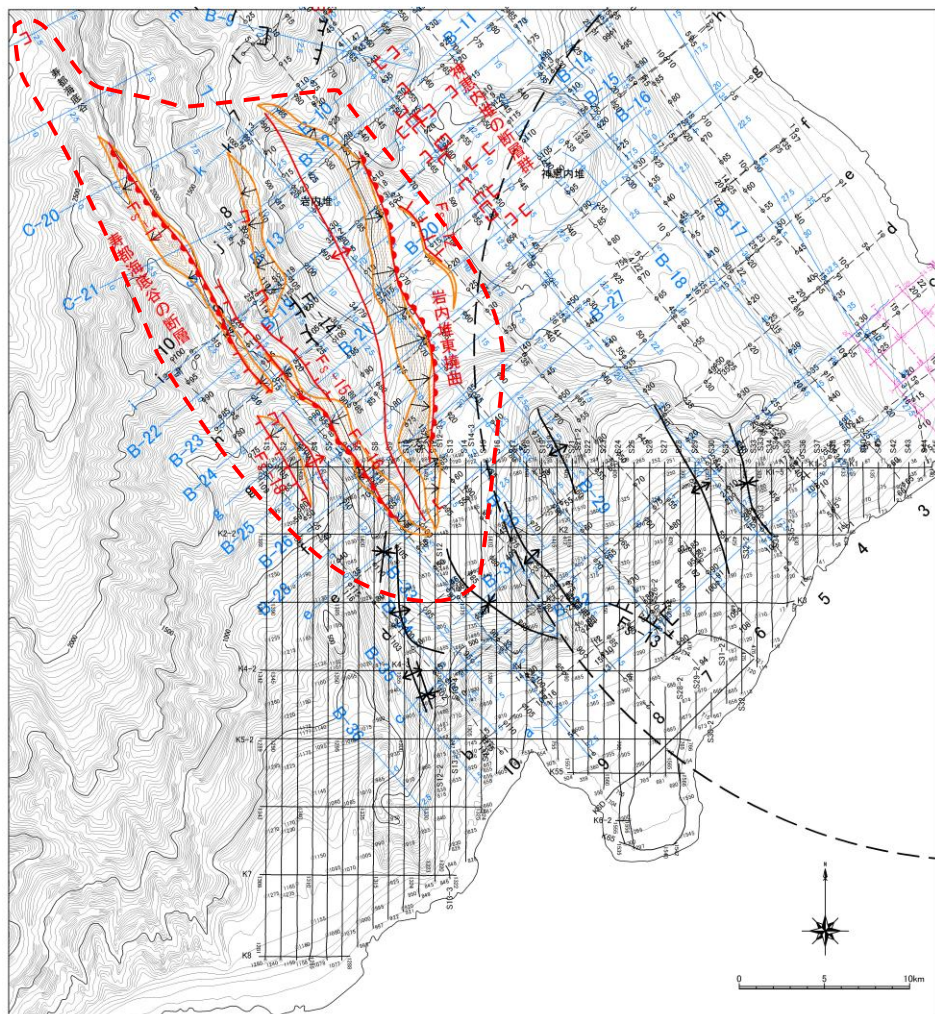
岩内堆は、神恵内堆の西側のNNW-SSE方向の地形の高まりで堆の南端は海底谷に規制される。岩内堆の西側に寿都海底谷の断層、東側に岩内堆東撓曲が認められる。

寿都海底谷の断層は、寿都海底谷沿いに分布するNW-SE走向のほぼ直線的な4条の断層からなり、大局的には東傾斜の断層と考えられる。また、岩内堆西側の斜面内に断続的に変形が認められ、その分布は岩内堆の地形に調和的である。

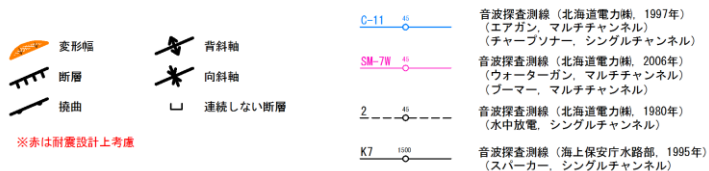
岩内堆東撓曲は、岩内堆の東縁にNNW-SSE走向で認められる西上がりの撓曲である。IV層の変形の分布は、北部の神恵内堆付近では、神恵内堆に構造が規制され、NW-SE走向となり、大局的な地質構造は岩内堆の地形の延びの方向と調和的である。

これらの断層は各々の走向及び傾斜の違い等により、系統の異なる断層の可能性があるが、南部で近接することから同一のグループに分類した。

Fs-12断層は、岩内堆東撓曲の副次的な断層と考えられる。

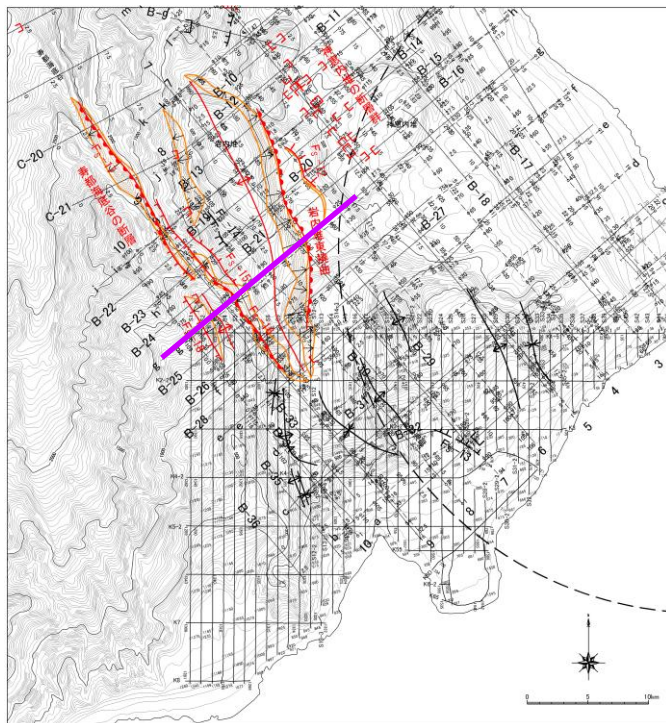


凡 例

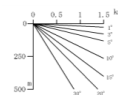
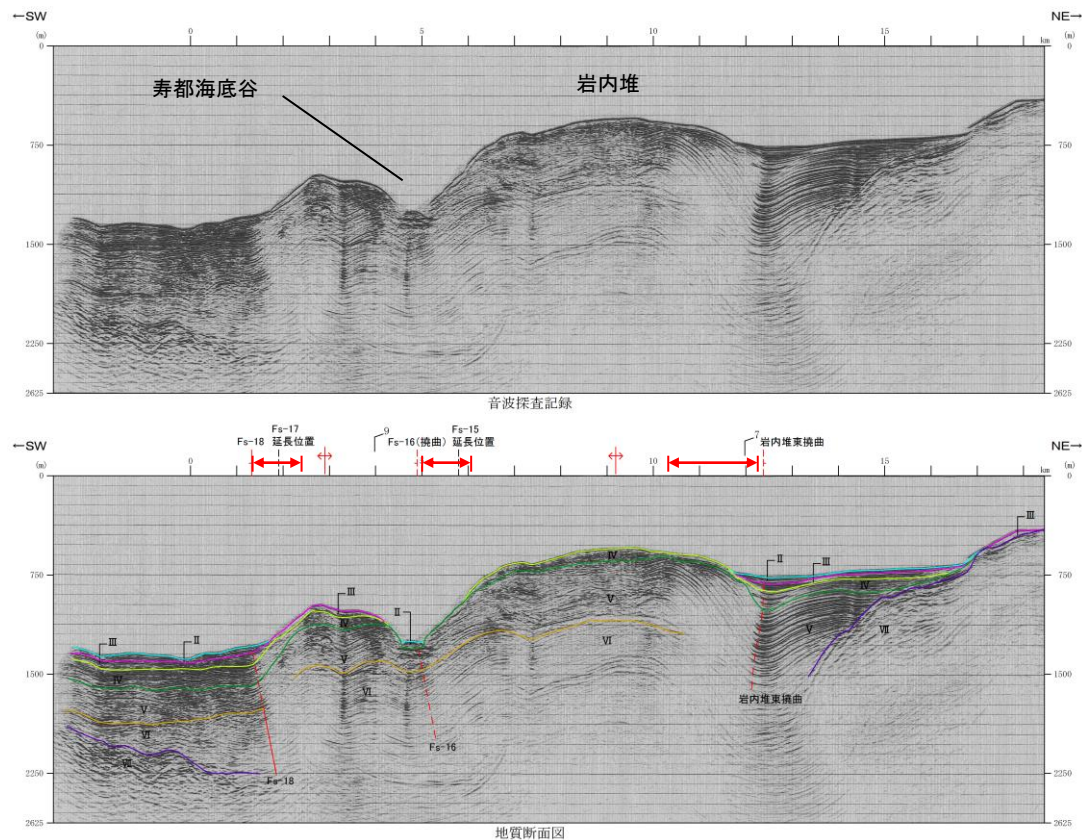


岩内堆周辺の断層群の概要

■岩内堆周辺の断層群(測線g)



寿都海底谷沿いに寿都海底谷の断層(Fs-16断層及びFs-18断層)が、岩内堆の東縁に岩内堆東撓曲が認められる。



数字(角度)は水平・垂直が
1:1の傾斜角度

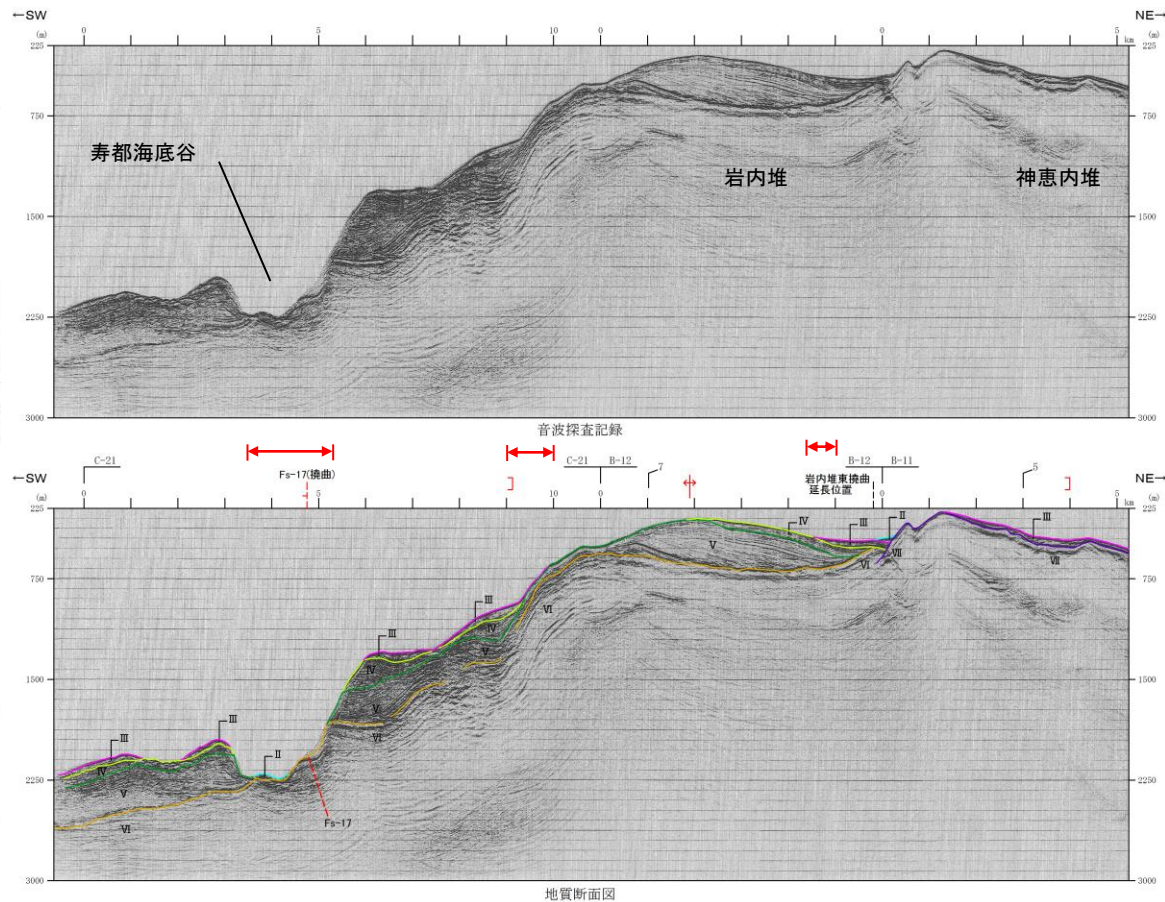
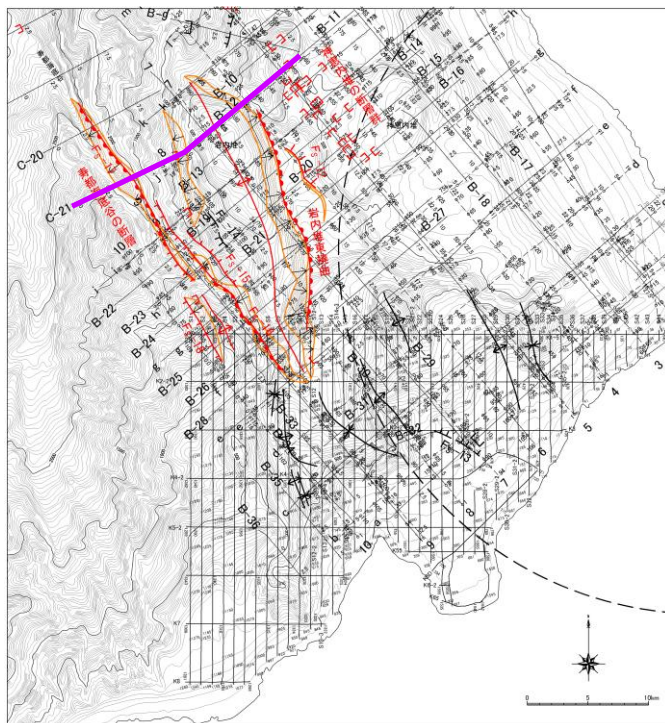
V.E. 約3

凡 例

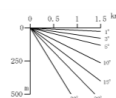
- | | |
|----------------------|------------------------------|
| I 層 (完新統) | — Fs-10 断層及び断層番号 |
| II 層 (上部更新統) | - - - F ₀ -2 (変形) |
| III 層 (中部更新統) | ┌ 連続しない断層 |
| IV 層 (上部鮮新統～中部更新統) | ↔ 背斜軸 |
| V 層 (鮮新統) | ✳ 向斜軸 |
| VI 層 (始新統～中新統) | ※赤は耐震設計上考慮 |
| VII 層 (始新統以下) | ↔ 変形幅 |
| VIII 層 (中部更新統 (貫入岩)) | |
| ～ 地層境界 | |

岩内堆周辺の断層群の概要

■ 岩内堆周辺の断層群 (測線C-21/B-12/B-11)



寿都海底谷沿いに寿都海底谷の断層(Fs-17断層)が認められる。



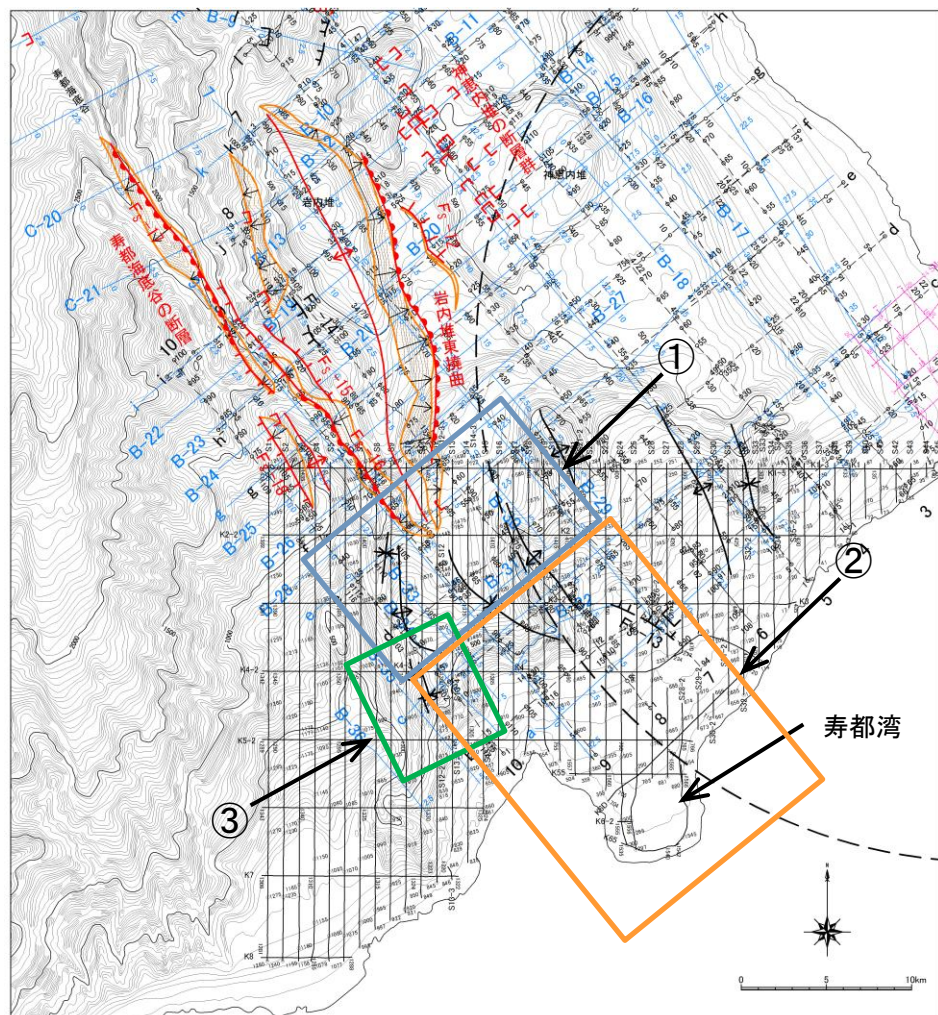
数字(角度)は水平・垂直が
1:1の傾斜角度

V.E. 約3

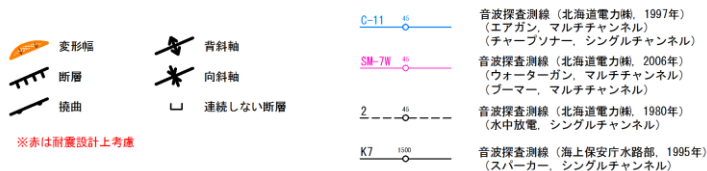
凡 例

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| I 層 (完新統) | — Fs-10 断層及び断層番号 |
| II 層 (上部更新統) | - - - (東部) F _D -2 |
| III 層 (中部更新統) | ┌ 連続しない断層 |
| IV 層 (上部鮮新統～中部更新統) | ⇄ 背斜軸 |
| V 層 (鮮新統) | ✳ 向斜軸 |
| VI 層 (始新統～中新統) | ※赤は耐震設計上考慮 |
| VII 層 (始新統以下) | ◄◄ 変形幅 |
| VIII 層 (中部更新統 (貫入岩)) | |
| ～ 地層境界 | |

岩内堆周辺の断層群の概要



凡 例



① 岩内堆南部

岩内堆の南部では、隆起量は徐々に小さくなり、岩内堆の南方延長部でNW-SE走向の寿都海底谷の断層とNNW-SSE走向の岩内堆東撓曲が会合する。会合部の南東方向の延長部は海盆状の地形が分布する。

② 黒松内低地帯の断層の北方延長

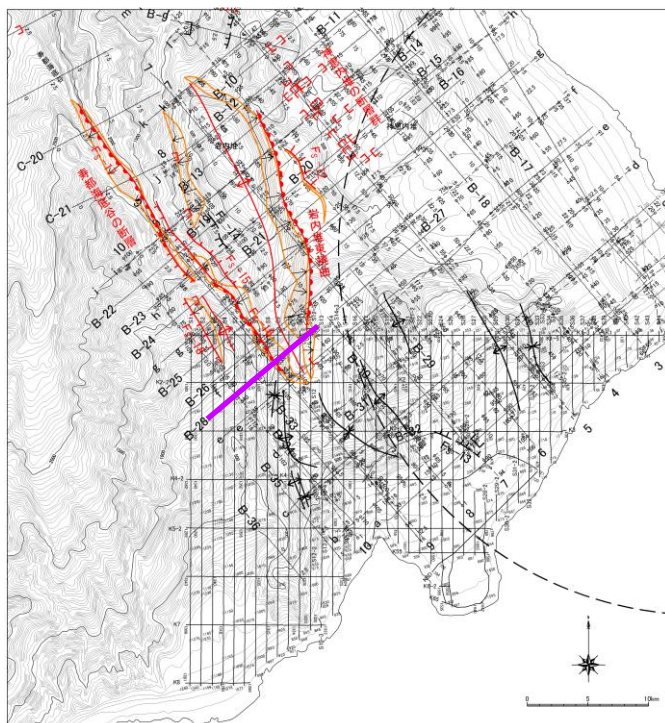
黒松内低地帯の断層の北方延長の寿都湾内には、陸域で認められるような地形の高まりや背斜は認められない。また、寿都湾沿岸のMm1段丘面(MIS5e)の分布標高には差がなく、陸域の断層から想定される西側隆起を示唆する変位地形も認められない。

③ 弁慶岬西側

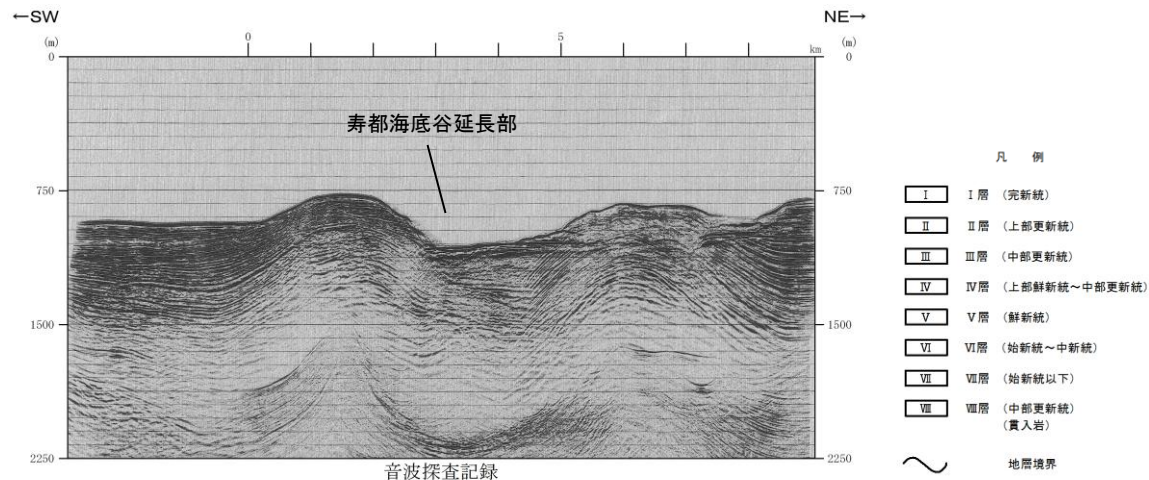
弁慶岬の北西の尾根部は、岩内堆周辺からの構造及び地形が一旦途切れるものと考えられる。弁慶岬の北西の尾根部には、短い不明瞭な変形が認められる。

岩内堆周辺の断層群の概要

■岩内堆周辺の断層群（測線B-28）



本測線付近では、北方に比べ岩内堆の隆起が小さくなってきているが、寿都海底谷延長部には、寿都海底谷の断層(Fs-16断層)が認められる。

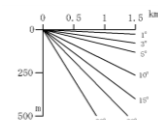
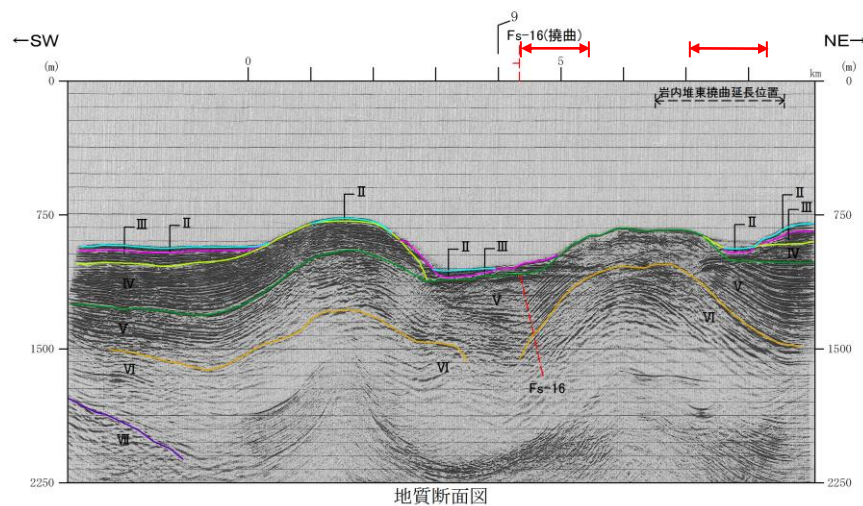


- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統) (貫入岩)

- 地層境界
- Fs-10 断層及び断層番号
- - - Fs-2 (変形)
- ┌ 連続しない断層
- ↔ 背斜軸
- ✱ 向斜軸

※赤は耐震設計上考慮

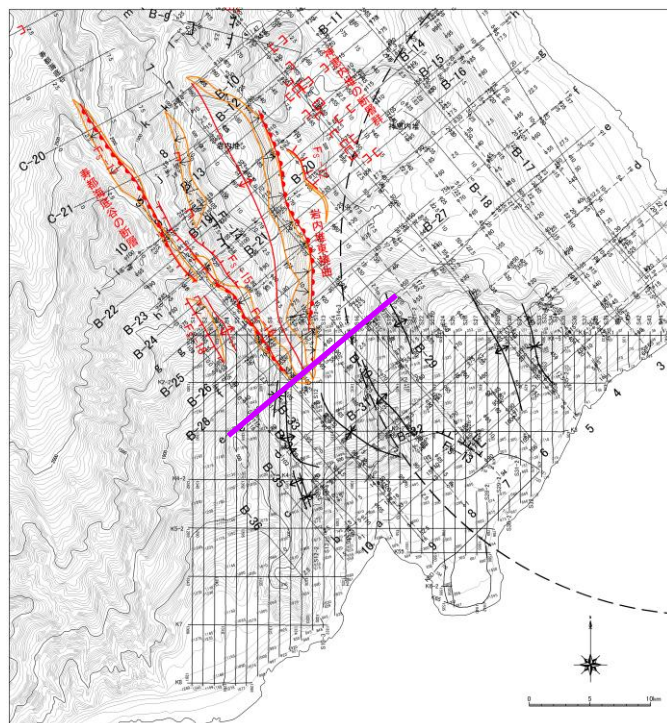
变形幅



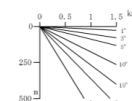
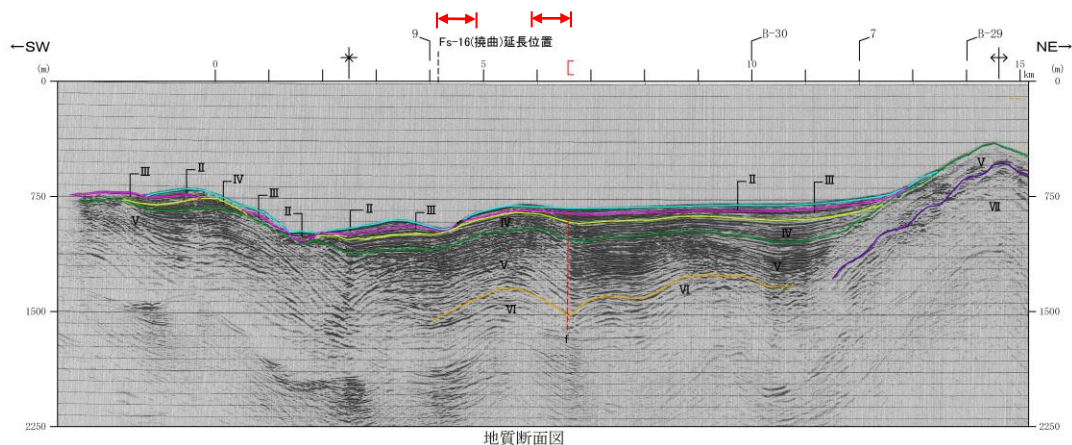
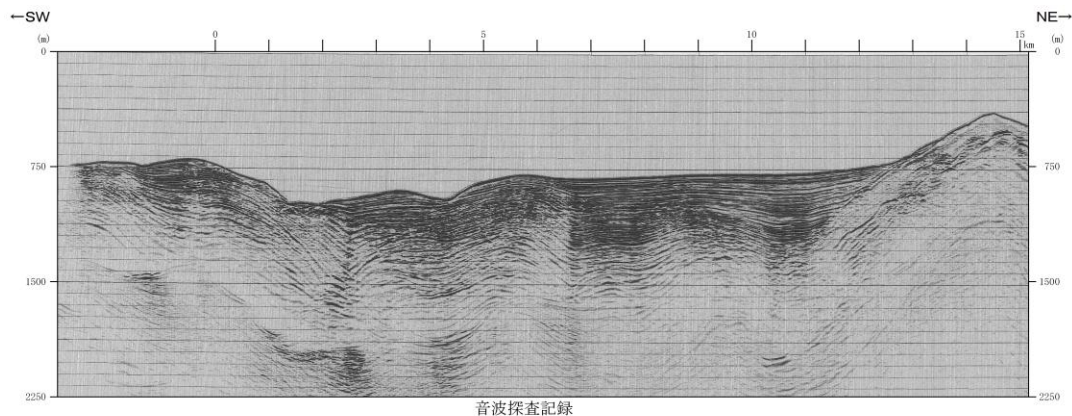
数字(角度)は水平・垂直が1:1の傾斜角度

岩内堆周辺の断層群の概要

■岩内堆周辺の断層群（測線e）

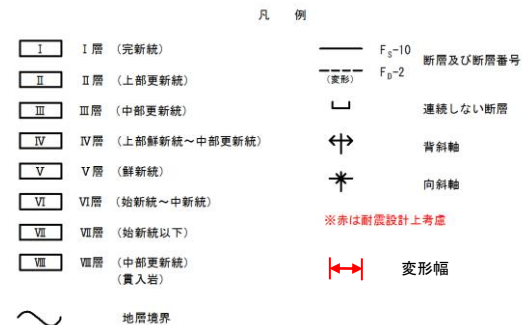


本測線付近では、複数の海底谷が合流し、谷状の地形も北方に比べ不明瞭となる。
また、岩内堆から連続する背斜は緩やかになる。



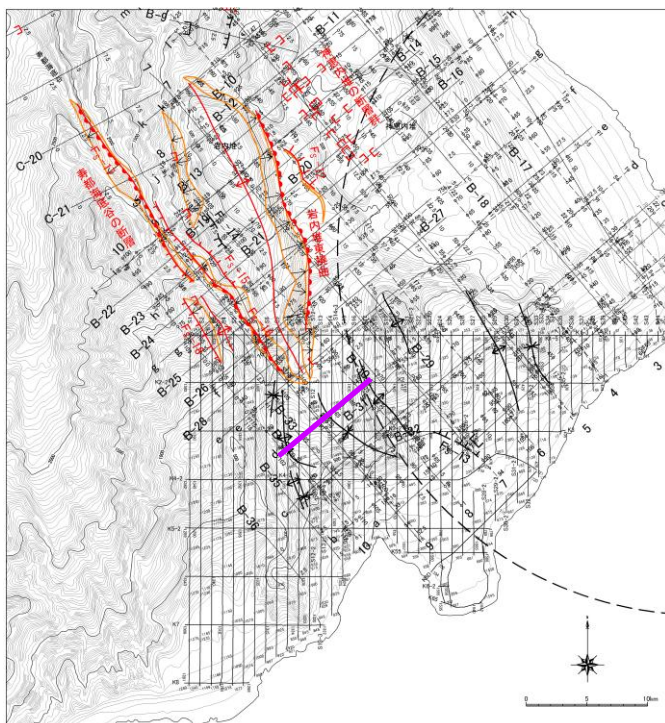
数字（角度）は水平・垂直が
1:1の傾斜角度

V.E. 約3

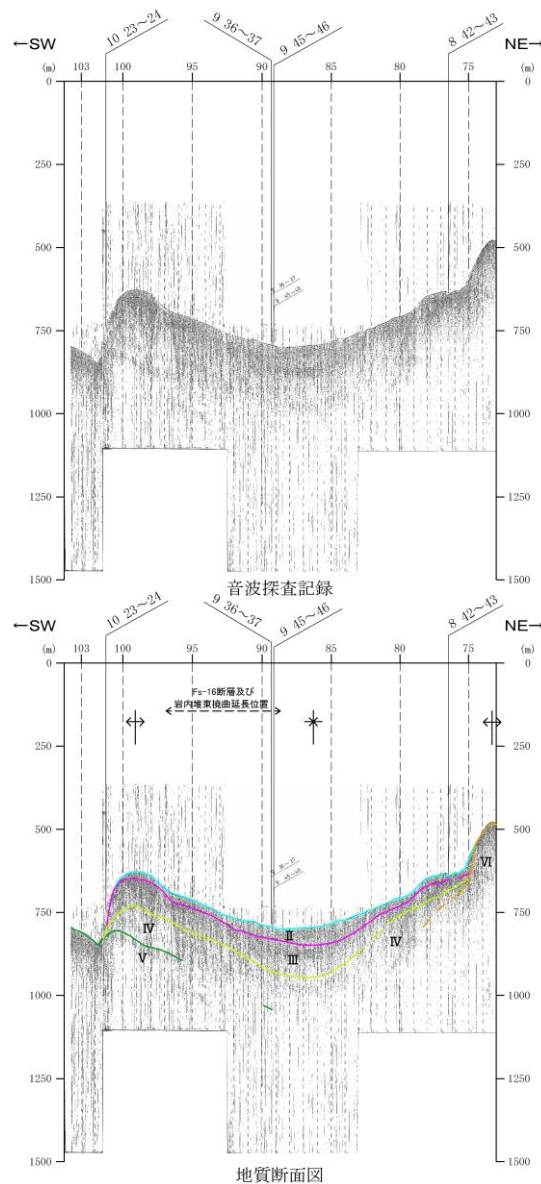


岩内堆周辺の断層群の概要

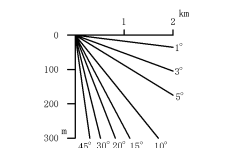
■岩内堆周辺の断層群の南方延長（測線d）



寿都海底谷の断層(Fs-16断層)の南方延長付近及び岩内堆東撓曲の南方延長付近では、緩やかな盆状の地形を呈し、寿都湾方向に連続するが、盆状の地形内部には断層を示唆する変位及び変形は認められない。



- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統) (貫入岩)
 - ～ 地層境界
 - Fs-10 断層及び断層番号
 - - - F₀-2 (変形)
 - ┌ 連続しない断層
 - ⇄ 背斜軸
 - ✱ 向斜軸
- ※赤は耐震設計上考慮

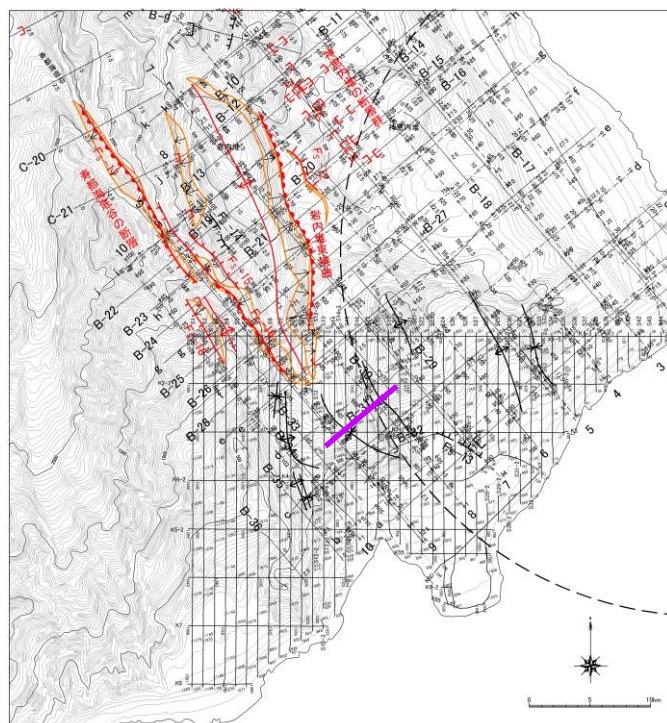


数字 (角度) は水平・垂直が 1:1 の傾斜角度

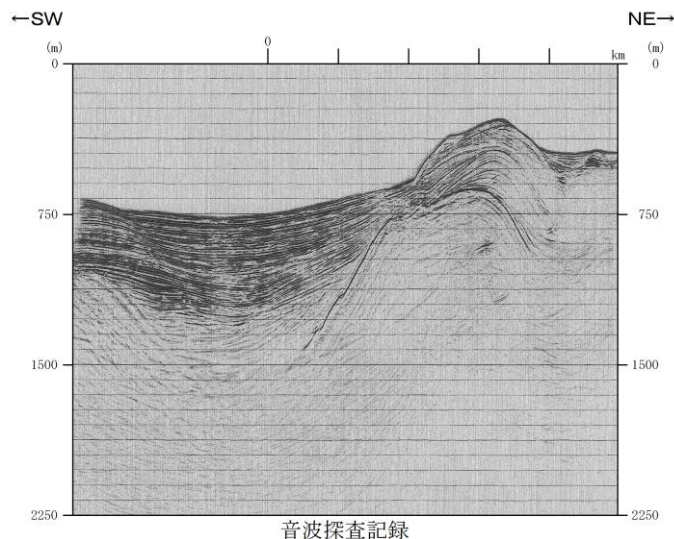
V.E. 約7

岩内堆周辺の断層群の概要

■岩内堆周辺の断層群の南方延長（測線B-31）



寿都海底谷の断層(Fs-16断層)の南方延長付近及び岩内堆東撓曲の南方延長付近では、緩やかな盆状の地形を呈し、寿都湾方向に連続するが、盆状の地形内部には断層を示唆する変位及び変形は認められない。



- 凡 例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統) (貫入岩)

～ 地層境界

— Fs-10 断層及び断層番号

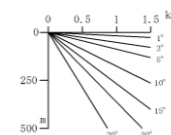
(虚影) Fs-2

└ 連続しない断層

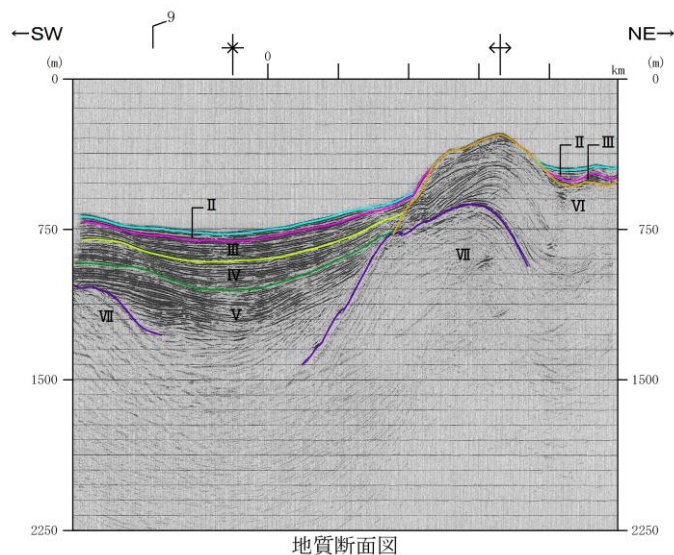
↔ 背斜軸

✱ 向斜軸

※赤は耐震設計上考慮



数字 (角度) は水平・垂直が 1:1 の傾斜角度



丸山東側付近の断層の北端評価位置